

サレルノ医学前史

小沢吉見

ナポリの東南三十二マイル、死都ボンペイの近くにあるサレルノにアラビア医学が上陸したのは九世紀であった。

これより先、遙か東方のティグリス河畔の都バグダッドに栄えたアラビア医学がアフリカの北岸を西に向って伝播し、シシリ島を経てサレルノに医学の殿堂を開いた。

サレルノに医学が興隆した理由については「医学の歴史」(小川鼎三著)に記されている。その理由の一つにサレルノの養生訓がひろく、ヨーロッパの人々によまれ、サレルノ医学の名前が親しまれた点をあげている。

この養生訓の内容が適切であり、また面白いだけに、一体どこから由来したのかという点と、もう一つ、この指導書の書かれた時期が早かったことに注目したい。

これまでは、ヨーロッパ近世の幕を開いたルネサンスの先駆者として、北イタリアのフィレンツェにおいて活躍し

たダンテ Dante Alighieri (一二六五—一三二一)をあげる。

ダンテの神曲はサレルノの養生訓よりも五百年も後の作品である。

また、これまでの通念によれば、北イタリアの都市に開花したルネサンスとは、ギリシャ・ローマの古典美術、文学を柱とする古典文学の復活であった。

スイスの歴史家ブルクハルト Burckhardt (一八一八—一九七)の名著「イタリア・ルネサンスの文化」によって開かれたルネサンス史観がこれまで支配的であった。

美術史の上に立ったこれまでのルネサンス史観に対してサレルノの養生訓を中心とするサレルノ医学の発展は全く新しい視点を与えるものである。

この養生訓の作られたサレルノのある位置はローマより遙か南方であるが、文化的には古代ギリシアの植民地 Magna Graecia にぞくすること、ボンペイの発掘壁画を見ても古代ギリシアのつながりは肯かれるところである。

また、ピュタゴラス教団のあったクロトンもこの近くに位置していた。

地中海交通の中央にあって、多国語の島ともよばれたシ

シリー島を経てアフリカの北岸、東ローマ帝国、さらに東方のアラビア文化圏との深いつながりがサレルノ医学の背景にある。この点がサレルノ養生訓の内容にどのようなように関係しているのか考えてみたい。

(名古屋衛生技術短大)

フランスにおける最初の医学新聞
を発行したニコラ・ド・ブレニー
ーについて

大村 敏 郎

我が国の江戸時代に相当する十七・十八世紀のパリの医学史をひもとく時、パリ大学医学部の医師達とその他の医療担当者達との間の葛藤の歴史を無視することは出来ない。

パリの医学部と対立するグループとしてはサン・コームの外科学校に属する外科医達、国王側近のモンペリエ派の医師達、そして王立医学植物園に根城をもつ解剖学者達があった。これらの力が結集されて一七三一年王立外科アカデミーが創立されることなる。

これに先がけて、何度か医学部への挑戦を試みた一匹狼がいた。今回その一人であるニコラ・ド・ブレニー (Nicolas de Bligny) をとりあげて紹介したい。フランス最初の医学